

1. 授業事例

Ms. Karen Kingston ; “Hitler Rise to Power—From Democracy to Dictatorship” の授業記録

(2013年3月15日, Our Lady Queen of Peace Catholic Engineering College School, KeyStage3

第9学年, 13~14歳)

(* 文中の下線は関係資料を音読した部分, 「P○」は生徒個人を示す。)

導入 学習材への着目

教師) では, 登場人物たちを見てみましょう。 **画2**

聞いてみますよ。P 1, この絵の中に, 誰かあなたの知ってる人がいますか?

P 1) ヒトラーとヒンデンブルクです。

教師) はい, すばらしい。ヒトラーとヒンデンブルクです。これがヒトラーで, こちらがヒンデンブルク。皆さんもわかりますよね。ほかに何か見つかりますか, P 2。

P 2) 二人は握手をしています。

教師) そう, 握手をしていますね。そして, 二人の背後には何が見えますか?

P 2) 群衆です。

教師) 群衆。彼らは何を持っているかわかりますか?

P 2) ナチ党の旗。

教師) そう。すると, 群衆は誰たちでしょうか。

P 2) 支持者たちかしら。

教師) ヒトラーの支持者たち。そうですね。

では, さらに資料を詳しく読み込んでみましょう。

画2 ヒトラーとヒンデンブルクの関係について, どんな印象を受けますか?

そして, もう少し難しい問い。資料の下の方には「ヒンデンブルクはぜひともヒトラーを首相にしたかった」と書いてあります。これは本当ですか? あなたの考えを述べてください。

前の時間のことを思い出してみるといいでしょう。ヒトラーが首相になるところから, 今日の授業を始めましょう。2分だけあげますので, この二つの問いに答えてもらえますか?

【ペア作業2分間】

教師) では皆さん, 時間です。P 3に聞いてみましょう。P 3, この資料からヒンデンブルクとヒトラーの関係についてどんな印象を受けましたか?

P 3) えーと, 手を握り合っていて, 友達みたいに見えます。

教師) そう?

生徒) えーとそれから, ヒトラーはヒンデンブルクを見上げているみたい。

教師) うん, いい所に目が向きましたね。P 3は, 握手に着目して友好的だと言ってくれました。そしてヒトラーを見ると, ヒンデンブルクを見上げていると言いました。でも, そう? 誰か, ほかの見方をした人はいませんか? P 4かP 5, どう?

P 5) 私は, 二人は友好的な関係で, ヒンデンブルクはナチ党を受け入れているという印象を持ちました。

教師) ありがとう。ナチ党を受け入れている, という意見ですね。二人は一緒にいて固く握手をしているし。…

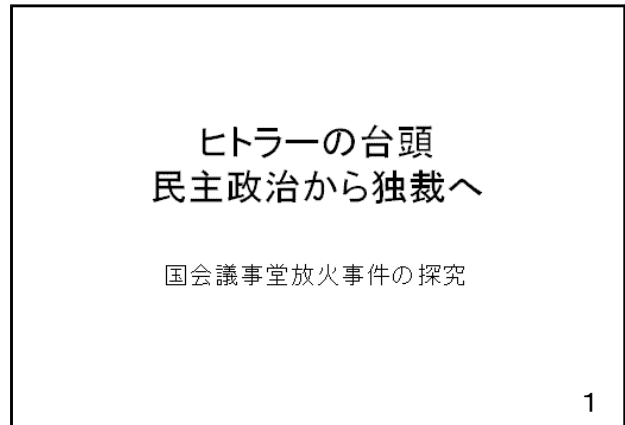
P 4, あなたはどう考えましたか?

P 4) ヒンデンブルクは平服を着ているけれど, ヒトラーは軍服を着ています。

教師) ヒトラーは軍服を着ているようですね。でも, ヒンデンブルクはどう? 平服ですか?

P 4) いえ, よく見たら制服みたいです。

教師) そうですね。このあたりを見たら, ヒンデンブルクが制服を着ているのがわかりますね。二人とも軍服を



着ているのです。どうですか、ほかの考えの人はいませんか？ では、さらに難しい問いについてはどうですか？ヒンデンブルクがヒトラーを首相にしたことです。前の授業で、誰が登場していたでしょう。P 6、どうですか？

P 6) もちろん、そうではありません。なぜなら、ヒンデンブルクはヒトラーを嫌って、避けようとしていました。

教師) なるほど。誰か、ヒンデンブルクが本当に首相にしたかったのは誰と誰か、前の時間を思い出してもらえますか？ P 7。

P 7) フォン・パッペンですか。

教師) フォン・パッペン。そしてもう一人は、ミッシェル。

ミッシェル) フォン・シュライヒャー。

教師) フォン・シュライヒャー、そのとおり。ヒンデンブルクは、彼ら二人をどうやって首相にしようとしたか、P 1。

P 1) 第48条を使って。

教師) 欠席の人もいたので、第48条について説明してもらえますか？

P 1) 大統領の権限で首相を任命できる、などのことを定めた法令です。

教師) そうですね、よく説明できました。では、何か違う予測が持てませんか。だって、このポスターは誰が作ったの、P 8。…前のボードに重要な手掛かりがありますね。

P 8) ああ、ナチ党です。

教師) ナチ党。そしてP 8、こういうタイプの情報を何と呼びますか？ポスターには違いないですが、どんなタイプの…。

P 8) プロパガンダ。

教師) プロパガンダ。どんなプロパガンダ、P 9？

P 9) 一面的な情報。

教師) 一面的な情報。有力者の二人が一緒にいます。では、二人は友達ですか？実はそういう関係でないことがわかりますね。皆さん知っているように、ヒトラーはとてもヒンデンブルクを嫌っていましたし、ヒンデンブルクはヒトラーを軽蔑していました。でも一方で、彼らは人々から見たイメージを重視したのです。ヒトラーはこの地位に満足しそうですか？

P 9) いいえ。

教師) 満足ではなかったのですね。

展開1 学習課題の明確化と解明に向けた見通し

〈10分経過〉

では今日は、次に何が起こったのかを見ていくことにしましょう。ヒンデンブルクが大統領でヒトラーが首相でしたが、ヒトラーは、ぜひナンバー1でありたいと考えていました。そのことは思い出せませぬ。

では、今日の学習の時代背景を確かめていきましょう。

画4 P10, 第1点を読んでもらえますか。そしてP11, 2番目を。P10が3番目を。ではどうぞ。

P10) 1933年1月30日にヒトラーが首相になった時、彼はまだ全権を掌握してはいなかった。

P11) 彼はまだ国会内の中心勢力ではなく、内閣にはほかに二人のナチ党員がいただけだった。

P10) その後1年半の間に、ヒトラーは総統となり、ドイツを民主政治から独裁に変えていった。

時代背景

- 1933年1月30日にヒトラーが首相になった時、彼はまだ全権を掌握してはいなかった。
- 彼はまだ国会内の中心勢力ではなく、内閣にはほかに二人のナチ党員がいただけだった。
- その後1年半の間に、ヒトラーは総統となり、ドイツを民主政治から独裁へと変えていった。

4

教師) 結構です。ヒトラーはナンバー 2 では満足せず、全権の掌握を望んだ。「民主政治」と「独裁」、大切な用語ですね。全員の机の上に、「民主政治と独裁」と書かれた小さなカードを配ります。今日の授業の中で本当に大切な用語ですので、これについて確かめておきましょう。自分のノートにそれを貼ってもらえますか。画 5 では P 4, 独裁とは何か、読んでください。そして P 12, 民主政治の方を読んでくれますか。

P 4) 独裁とは、全権をにぎる統治者によって国家が治められた状態。一切の抵抗を許さず、望むことを何でも行える政府のこと。

教師) ありがとう。では、P 12。

P 12) 民主政治とは、政府のリーダーたちが国民から投票で選ばれるシステム。

教師) 結構です。この 2 語についてはいいですか？民主政治は私たちが手にしたもので、独裁はドイツが経験したものです。政治家は国民が投票で選びましたが、ヒトラーはそれを望みませんでした。彼は、ドイツを完全に民主政治から個人独裁に変えようとしたのです。

今日の授業で行う作業はこれです。画 6 ヒトラーがどのようにしてドイツを民主政治から独裁に変えていったのか突き止めよう。今日の授業だけでなく、次の 2 時間もこの課題に取り組みます。

さて、ヒトラーを権力者に押し上げた画期の一つとなるのが、国会放火事件です。今日の授業では、この事件がどのようにしてヒトラーの権力掌握に役立ったかを理解してほしいのです。それがねらいです。ホワイト・ボードにも書いてあります。1933年の全権委任法と呼ばれる法のこと、それがいかにヒトラーの権力掌握を後押ししたかを見ていきましょう。

でははじめにこの写真を見てもらいましょう。

画 7 どんな写真かわかりますか？たくさんの尖塔が見えますね。P 13, この建物は何でしょう？どこにあるものですか？

P 13) ロンドンですか。

教師) ロンドンね。P 13はいい糸口を示してくれました。

P 4, 手助けできる？

P 4) ビッグ・ベンと国会議事堂です。

教師) ビッグ・ベンと国会議事堂。では、なぜこの建物は重要なのでしょうか、P 5？

P 5) 国で何が行われるべきかを、議員たちが話し合う場所だからです。

教師) そうですね。そしてここでは、話し合うだけでなく何をしますか？

生徒) 法律を作ります。

教師) 法律を作るんですよ、私たちにも関係の深い。すると、これは私たちの国会議事堂だということです。

さて、今日はイギリス史の学習ではありません。ドイツ史です。画 8 これがドイツの国会議事堂です。レ

重要語句

- 独裁 = 全権をにぎる統治者によって国家が治められた状態。一切の抵抗を許さず、望むことを何でも行える政府のこと。
- 民主政治 = 政府のリーダーたちが国民から投票で選ばれるシステム。

5

学習のねらい

- ヒトラーがどのようにしてドイツを民主政治から独裁に変えていったのかを突き止めよう。
- ベルリンにある国会議事堂の放火事件について調べよう。放火事件はナチ党の勢力台頭とどのように関係するのだろうか？
- 1933年のヒトラー首相への全権委任法制定がヒトラーの台頭をどのように後押ししたかを理解しよう。

6



この建物は何ですか？ どこにありますか？
この建物はなぜ大切なのでしょう？

7

ドイツ共和国の国会議事堂 (1930年頃)



ベルリンにあるこの建物は、民主主義の象徴だった。

8

ングとモルタルでできた建物です。私たちの国会議事堂と同じように、この建物は、国民が投票し、話し合っ
て法律を決めるといふ民主主義の象徴なのです。

画9 これは1930年当時の姿です。しかし1933年1月、国家議事堂で火事がおこりました。**画10** 建物は炎に包まれました。27日の夕方頃火がおこり、翌日までくすぶりました。もし私たちの国会議事堂ならば、と考えてみましょう。もし火に包まれてしまったら。

生徒) ヒトラーが火をつけたのですか？

教師) ああ、それをこれから調べようとしているのです。

30分もせずに、その答えがわかってくるはずですよ。

〈15分〉

では、誰が火をつけたのでしょうか？その可能性がある人物を二人あげてみましょう。**画11** こちらの男性について、読んでくれますか、P2。

P2) マリナス・ファン・デル・ルッベは罪に問われた。

彼は有罪になり、放火事件は共産党員によるテロ計画の一環だとされた。

教師) はい結構。共産党員ってどんな人ですか、P9。

P9) ナチ党の反対派です。

教師) ナチ党の反対派、なるほど。共産党はどんな考え方を持っていたのですか、P1？

P1) 誰もがみな同じように扱われ、同じように給料をもらう。

教師) そのとおり。だから、民衆はこれを支持しようとしたのです。

こちらの人物、ナチ党のヘルマン・ゲーリンクというのはどんな人ですか？P10、あなたはナチ党が怪しいと言いましたよね。

そこで今日は、皆さんにこの事件について突き止めてほしいのです。この事件がヒトラーの権力を高めることになったからです。

私たちの作業課題です。

画12 【生徒を指名し作業課題を音読】

【バランスよいペアとなるよう個別指名し席替え指示】

【袋入資料の配付、ペアでの資料読解作業（20分間）】

展開2 資料の読解に基づく学習課題の追究 〈48分〉

教師) それでは、20分経ちました。何かわかりましたか。

結局、誰のせいだったのですか？

生徒) 共産党員。

教師) 共産党員、なるほど。では、放火が共産党員のせいだとされた根拠は何だったのでしょうか？

すべての資料は読み終わってなくても、おそらく6個から7個ぐらいには目を通せたでしょう。では、それを順に見ていきましょう。

初めに **資料A** (以下資料Aから資料Lは一覧後掲)。資料Aは、誰のせいだと言っていますか、P14？ P14) 共産党員です。

教師) 共産党員、そうですね。共産党員のせいだというのは、どんなことを根拠にわかるのですか？



ドイツの
国会議事堂

9



炎に包まれるドイツ国会議事堂

10

国会議事堂に放火したのは誰か？



ファン・デル・ルッベは有罪になり、放火は共産党員によるテロ計画の一環とされた。



国会議長のヘルマン=ゲーリンクとナチの旗



11

作業課題

ドイツ国会議事堂放火事件について調べよう

- 配られた資料を用いて、1933年2月27日の国会議事堂放火事件が誰の仕業なのか調べよう。
- 二人組でそれぞれの資料をよく読んで、自分の考えを配られた記録用紙に書き込んでいこう。
- 記録用紙全体を見て、考えをまとめよう。誰が何のために放火したのかがつかめてくるだろう。必ず、自分の考えを裏付ける資料を示せなくてはならない。
- 自分とは異なる視点からの質問にも答えながら、12クラス全体に自分の考えを説明しなくてはならない。

P14) 共産党員が議事堂内にいたこと。

教師) なるほど、するとナチは、共産党員が議事堂内にいたことを理由に、共産党の仕業だとしたのですね。さて、整理してみましょう。議事堂という場所は何でしたっけ。国会って何ですか、P1。

P1) 議会の建物です。

教師) 議会の建物。その中には誰がいましたか？

生徒) 下院議員たち。

教師) 下院議員たち。共産党員も下院議員でしたか？

生徒) はい。

教師) そのとおりですね。誰か思い出してくれますか、共産党の議員は何人いましたか？何を見ればわかりましたか？

生徒) 126人です。

教師) まあ、120人以上も、知らなかったわ。126から130人ね。ならば、どうして共産党員が議事堂にいない理由がありましようか。そうじゃない？例えて言えば、この教室で何かおこったとして、P12がそこにいたからというだけでP12が疑われるのと同じです。不合理ですよ。彼は学校の生徒なんだから、ここにいるのは当たり前、そうでしょ。ナチ党が訴えたように共産党員が議事堂内にいたからといって、それがどうだといふのでしょうか。資料Aについてはいいですか？

では、**資料B**を見ましょう。P10、資料Bは誰のせいだと言っていますか？

P10) 共産党員です。

教師) また共産党員。その根拠はどんなことですか？

P10) ファン・デル・ルッベが、火を着けたことを自供したのです。

教師) ありがとう。ファン・デル・ルッベがナチの責任者ディールに、自分が行ったと自供したというのですね。袋の中の資料Bをよく見てみましょうか。ルッベは、どうしてこの資料に記されたのでしょうか。もう少し詳しく見てみる必要がありそうですよ。

P15) 専門家だから。

教師) ありがとう。P15は専門家だからだと言ってくれました。何の専門家なの？

生徒) 放火魔。

教師) 放火魔。専門の放火魔だから、ナチ党はルッベの仕業だと言ったのですね。資料を見て、この専門家がどのように火を着けたか教えてもらえますか、P10。

P10) 彼はライターを使いました。

教師) ライターを使った。それから何を使ったのですか？

生徒) シャツを。

教師) シャツ。想像できますか？もし私が布きれを火の上に置いたら、どうなりますか？ちょっとあなたのコート貸してね、P13。このP13のコートに私が火を着けたら、どうなります？

生徒) 燃えます。

教師) 燃える。さらに、もし私がこれを抱えていたとしたら、何がおこりますか？

生徒) 先生が燃えてしまいます。

教師) 私が燃えてしまう。布きれは、火を着けるためにふさわしい物でしょうか？

生徒) いいえ。

教師) 専門家の放火魔は、そうしますか？

生徒) いいえ。

教師) しませんよね。うん、面白い。

では、**資料C**に移りましょう。資料Cは誰のせいだと言っていますか、P13。

P13) ヘルマン・ゲーリンク。

教師) はい、資料Cはゲーリンクだと言っている。その根拠は何ですか？

P13) 彼がそれを認めました。

教師) 彼が認めた。なるほど。どんな状況だったのでしょうか、P16？

P16) ああ、彼らは食事をしてたんだ。

教師) P9、いかがですか？

P9) お酒を飲んでいました。

教師) お酒を飲んでた。どんな特別な食事だったからでしょう、P15？

P 15) ヒトラーの誕生日を祝っていました。

教師) そう、ヒトラーの誕生パーティーで、彼らはお酒を飲んでいました。パーティーは何年のことですか、P 13?

P 13) 1943年です。

教師) 1943年には何がおこりましたか、P 5?

P 5) 第二次世界大戦です。

教師) 第二次世界大戦。戦争は順調で、ナチ党はみんなお祝い気分だった。

そして、お酒を飲むと人はどうなるのでしょうか、P 6?

P 6) 正直に話すようになります。

教師) お酒を飲むと正直に話すようになるものですよ。そして、誰が認めたんですって?

生徒) ゲーリング。

教師) ゲーリングでしたね。面白い。

さらに進みましょう。**資料D**によると、誰のせいですか、P 16?

P 16) ファン・デル・ルッベです。

教師) ファン・デル・ルッベ。その根拠は何ですか?

P 16) …。

教師) 彼は自白したのですか?

P 16) はい。

教師) 結構。彼は認めた。さらにどんな証拠が必要でしょうか? 彼が認めたのは本当なのですか?

生徒) 強制されて。

教師) ありがとう。強制されて、あり得ることではありませんか。評価を得たいとか注目されたいとかで、やってもいないことをやると認めることはありますよね。でも、必ずしも強制されたとは限りません。彼をよく見てみるとどうでしょう。彼は20代の前半、23歳の若さです。そして強大なナチ党の警察に留置されていたのです。

資料Eに進みましょう。P 13, Eは誰のせいだと言っているか、教えてもらえますか。

P 13) Eは、おそらく共産党員のせいだと言っています。

教師) そう、共産党員のファン・デル・ルッベですね。彼のせいだとする根拠は何ですか?

P 13) …

教師) ではP 10, P 13とチームを組んでましたから、助けてあげられますね。

P 10) …

教師) いいでしょう。事件はルッベの仕業であり、共産党員が疑われたということですね。誰か、P 13が言ってくれたことを補ってくれない? P 13, 手を挙げましたか? 事件の全容はどうだったの? 何が証明されたの? ルッベだけではなかったのですか?

P 13) ええ、彼は独りでは実行できませんでした。ただ共犯者は誰もわかっていません。

教師) はい、どうやらルッベは独りではなかった、でも共犯者がいたかどうかはわかっていない。ところで、彼はなぜこの事件をおこそうと思ったのでしょうかね、P 1?

P 1) 革命を始めようとした。

教師) なるほど、この資料で言われているのは、ルッベを含む共産党にはもっと大きな企みがあった。ところで、革命ってどんな意味? P 14にきいてみましょう。

P 14) 同じ国の人たちが、闘って何かを奪い取ろうとすること。

教師) そうですね。闘いがおこったりもして、何かを奪い取ろうとすることですね。さっきP 13に言ってほしかったのは、ルッベは独りで行動したのではなく誰かにやらされたということ。そしてそれは、何か大きいものの一環。彼は、ただ放火が好きだったからやったのではない。彼が本当に手に入れたかったのは、国全体。さあ、では**資料F**です。まだ指名してない人は。P 15, 資料Fによると誰のせいですか?

P 15) ええと、共産党員。

教師) はい。それは誰が言っていることですか。

P 15) ゲーリング。

教師) ゲーリング。彼自身は、まったく反対に共産党員のせいだと言っています。裁判で「私ではありません、私はやっていません」と。でも、彼は自分が助かりたくて裁判に臨んだ。彼を信じられるでしょうか?

続けましょう。**資料G**です。P 17, 資料Gには誰のせいだとありますか?

P 17) ナチ党です。

教師) ナチ党の全員ですか？

P 17) ゲーリングです。

教師) ゲーリングですね。結構、資料Gは明らかにナチによる計画だと言っています。なぜ、彼らはそうしようとしたのでしょうか？

P 17) 共産党をわなにはめようとしたんです。

教師) なるほど。説得力のある発言ですね。わなにはめようとしたことから、ナチ党と共産党のどんな関係がわかりますか？

生徒) 互いに嫌って対立していた。

教師) 互いに嫌っていた。なぜヒトラーは共産党を嫌っていたのでしょうか？ P 4。

P 4) 共産党の誰かを嫌いだったのではなく、敵対関係だったのでは。

教師) ありがとう。共産党はヒトラーの敵対勢力だったからですね。そして、選挙の結果、共産党の国会議員の数がどうなっていましたか？

生徒) 増えました。

教師) 共産党議員の数が増え、それがヒトラーを困らせた。それが、共産党を責めたてようとする強い動機になったかも知れない。

少し急ぎましょう。**資料H**。P 1, 資料Hは終わった？

P 1) 共産党のせいだと言っているのでしょうか。

教師) そう、共産党だとしていますね。その理由はわかりますか？

P 1) 共産党が火を着けたと信じられていたから。

教師) はい、ただひたすら共産党の仕業だとされた。

資料Iです。資料Iを終えた人はいますか？ P 6。

P 6) はい。共産党の仕業だと言っています。

教師) 再び共産党。資料Jはどう、P 11？

P 11) ええと、ナチ党。

教師) **資料J**によるとナチ党ですね。

生徒) いいえ。共産党だと言っています。

教師) ちょっと、みんなで資料Jを見てみないと。P 11, 資料Jを読んでもらえますか。

P 11) ええ、(資料J) 火事の翌日、ヒトラーは第48条を用いて緊急事態指令を出すよう、ヒンデンブルク大統領を説得した。国民を政治権力から保護するための法律が、反政府的な疑いのある人物を誰でも逮捕できるという、ものすごい力をヒトラーに与えたのだった。個人の権利や表現の自由はまったく制限された。ヒトラーにとっては、政敵を退けるための絶好の機会だった。多くの者が捕らえられた。そうでない者は、SA (突撃隊) による脅迫行為のために議決ができなかった。突撃隊は、反ナチ派の敵対者に疑いをかけていることをほのめかした。

教師) よく読みました、P 11。すると、ナチ党が怪しいことになりませんか？ P 11, なぜでしょう？

P 11) 彼らは敵対者に疑いをかけたから。

教師) そのとおりですね。ナチ党は共産党のせいだと言いました。でも、よく見てみると、ナチ党はすぐに何をしましたか？ヒトラーが何をしたために、共産党員がみな有罪になったのですか？今まで見てきた中で、これが一番大切な資料ではないでしょうか。議事堂の火事が起こったとき、ヒトラーは何をしましたか、P 4？

P 4) 彼は、あらゆる敵対者をすぐに攻撃したと言っています。

教師) ありがとう。彼は誰に、共産党の仕業だと思こませましたか？資料によると…ヒンデンブルクですね。ヒンデンブルクって誰でしたっけ、P 6？

P 6) 大統領です。

教師) 大統領。そして、ヒトラーはヒンデンブルクに何を求めましたっけ？

P 6) ええと、第48条。

教師) そう、そして法令が出された。ヒトラーはそれを使って、何をしましたか？

P 6) 彼らを逮捕した。

教師) 逮捕した、そうです。興味深いことですね。よくやってくれました、P 11。これを見れば、誰もが「もちろん共産党員が逮捕されるはずだ、きっと彼らの仕業だ」と思います。でも、事態をよく見る必要があります。ヒトラーによる逮捕は、とても迅速でした。資料Jは、ナチ党のせいだと言っています。彼らは、この事件を共産党の排除に利用したのです。

(10分)

展開3 学習課題の解明

(64分)

教師) この学習から、私たちが何を学んだかを整理しましょう。この建物は炎に包まれました。そしてこの建物が何を意味するものだったか、すでに見ました。私たちにとってのキーワードの一つです。何でしたか、P14?

P14) 民主主義です。

教師) 民主主義。民主主義って何ですか、P14?

P14) 国民が選挙権や発言権をもつこと。

教師) 国民が選挙権や発言権をもつ。多くの人たちが立候補し、選出されます。ナチ党も共産党も。ナチ党は何を望みましたか? 共産党は何を? 彼らはなぜそこにいて何をしていたのですか、P10)?

P10) ええ、共産党は誰もが同じ扱いになることを望み、ナチ党はそれに反対だった。

教師) 結構です。中身は違っても、結局どちらの党派もがのぞんだものは何? 権力ですね。そして、権力を得るためには票を得ることでした。共産党は、火事によって何を獲得しましたか?

生徒) 何も。

教師) 何も得ていない。P13、共産党は何議席もっていましたっけ? さっき言ってくれましたね。

P13) 126議席。

教師) はい、その数値をとりましょう。共産党は126議席あった。ナチスは、P12?

P12) 二百…。

教師) 230議席。でも、まだ過半数ではなかったのです。ナチ党はどうやらそういう状況でした。一方、共産党が何かに放火しようとする理由は何でしょうか? 議席は増えたのですか?

生徒) 彼らは世論に支えられていました。

教師) ありがとう。彼らは世論を得ました。だから、ヒトラーが心配したのです。彼らはその地位を高め、議席が増える、という状況だったのです。ヒトラーは憂慮しました。そして、ドイツでは3月に選挙が予定されていたのです。ヒトラーは、次の選挙で誰が多くの議席を得ると考えたでしょう?

生徒) 共産党。

教師) 共産党。さあそして、議事堂が火に包まれたのです。あらためて、資料全体を見てみましょう。ナチ政府は、突然このマリナス・ファン・デル・ルッベに目を付けます。彼が放火の専門家だと信じられますか? マリナス・ルッベについて、ほかに何かわかりませんか? それが何かを示す資料は、ありませんか? 例えば彼は、どこから来たの?

生徒) オランダ。

教師) オランダから来た。ドイツ人ではない。誰かほかにわかることは? 皆さん、資料を見てくれたはずでしょう。どの資料かに載っていましたが、どれだったかしら。ええと、これじゃない。ファン・デル・ルッベのことを書いた資料を探して。ああこれだ、**資料L**を見ましょう。とても興味深い資料です。

生徒) 彼はマニアックだったと書いてあります。

教師) ええ、マニアックというのは少し違いそうです。彼は精神疾患だったのです。そして資料Lにはほかに、彼はどんなふうだと書いてありますか?

生徒) 思慮半分。

教師) 思慮半分とは、どういう意味ですか?

生徒) 愚か者。

教師) ありがとう。今の討議からは、彼が精神的な問題を抱えていたことは間違いないと言えそうですね。大人だったけど、大人の頭脳は持っていなかった。本題に戻しましょう。子供は強制されれば悪さをするものですよね、違いますか? そこで、もしナチ党がこの人を欺いて事件をおこさせて彼の仕業だと言ったならば、彼に目を付けて操り、彼を都合よく事件に関わらせたとしたら、立場を有利にするのは誰?

生徒) ナチ党。

教師) 誰が有利になるか、ナチ党なのです。根拠にした資料を信じていいのでしょうか? だって、共産党の犯行であることを示す資料がホワイトボードにどれほどあることか。ナチ党を指す資料はほんの少しです。この件でナチ党を指す資料は、ほかに見つかりません。

誰か最後の資料Lについて報告してくれますか。

P4) 彼らは秘密のトンネルを持っています。

教師) ナチ党がですか、P4?

P 4) 秘密のトンネルを通して、そのまま国会議事堂に入れたんです。

教師) はい、国会議事堂にまっすぐ入れる秘密のトンネルがありました。何かアイデアが浮かびそうですね、P 4?

P 4) 共産党が革命をおこそうとしたのではなく、ナチ党が革命を考えていたかと。

教師) なるほど。このカードを見てもらえますか。このカードが何を語っているか、気がついていない人がいると思うのです。すでにP 4がヒントをくれましたよ。もっとよく見ましょう、この資料には何と書いてありますか?

生徒) ヒトラーとナチ党は賢く、共産党は無知でだらしない、共産党員は悪い連中だと言っています。

教師) そのとおり。では、この資料は誰が作成したのでしょうか?

生徒) ナチ党。

教師) ナチ党です。そして、さっきP 4の言ってくれたことに目を向ければ、資料に書かれたことの多くがナチ党の言い分だとすれば、国会議事堂の放火は誰の仕業でしょうか?

生徒) ナチ党。

教師) なぜ彼らはそうしたのですか?

【生徒どうしの話し合い】

生徒) 共産党を排除するためです。

教師) なんで、なぜそうしようとしたの?

生徒) 共産党を蹴落とすため。

教師) 共産党の排除。

想像してみましょう、明日目が覚めてニュースを聞いたら、国会議事堂が火災にあったと。犯人はクレグ氏だ。そして、すぐにキャメロン首相が「ああ、自由民主党は恐ろしい。その現場にいたミリバンド氏と労働者連中の仕業だ」と言ったなら。きっとショックを覚えてぞっとすることでしょう。皆さんはニック・クレグやミリバンド氏に投票しようと思いますか?

【生徒どうしの話し合い】

教師) 放火事件でも、多くの人々は「共産党はなんてひどい連中だろう」と思ったはずですが。それがヒトラーのねらいだったのです。彼は、共産党が政権を奪おうとしていると考えたのです。資料Eを見てみましょう。

「革命」という語が見つかりましたよね。彼らは支配権を得ようとしたのです。ナチ党は誰のことをどのように言いましたか?

生徒) 共産党のことを悪い人たちだと言いました。

教師) 悪い人たちだと。何をしたからでしたか?

生徒) 武器を手にして、権力を手に入れようとしたから。

教師) 革命をおこそうとしたから。そこで、ヒトラーはこの火事を利用しました。共産党の信頼を損なわせるために。納得がいきましたか?

生徒) はい。

教師) はい、よろしい。では、資料をみんな袋の中に戻してください。

もう、今日のタイトルはわかりましたね。問いは「誰が何のために放火したか」。

【配付資料の回収】

まとめ 学習の振り返りと次時への見通し

〈73分〉

教師) 皆さん、5分間とりますので、誰が何のために放火したのか、自分の考えを書いてください。いいですか。

誰が何のために放火したか、それはこういう次第だと。誰が火を着けたのでしょうか。あの当時、ナチ党の言い分を信じることができましたか? ファン・デル・ルッペだったのですか? それともゲーリンクだと思いませんか? その根拠は? 要点をまとめてください。そして、もし皆さんが本当に賢明でありたいのなら、他人の言うことを信じようと思わない理由が何なのか、説明できるはずですが。いいですか? 信じない根拠は何なのか。

教師) では、ペンを置いてください。P 18, あなたは誰の仕業だと思いますか?

P 18) ナチ党。

教師) ナチ党の仕業だと思うのですね。なぜそう考えるのか、話してもらえますか。

P 18) ええと、共産党を陥れるため。

教師) なるほど。共産党を陥れようとしたから。ほかに何か書きましたか?

P18) 次の選挙で、大幅に議席を増やしました。

教師) ありがとう。ナチ党が議席数を増やして、誰も共産党に投票しようとしなかった。結構です、P18。P7、あなたの考えを読んでもらえますか。誰が何のために議事堂に放火したのですか？

P7) ナチ党の仕業です。共産党を陥れるためです。理由は、彼らは議席を増やせるか不安だったし、革命がおこるのを避けようとしていました。

教師) ありがとう。ナチ党が事件の犯人なのですね。二人とも、結構でした。共産党の仕業だという人はいませんか？…はいわかりました。ナチ党という意見に賛成ですね。実情を話しますと、この青年（ルッベ）は処刑されました。わずか23歳。彼はこの事件で有罪とされ、命をなくしたのです。でも、後に彼の名誉は回復されました。1980年のことです。事情がよく調べられ、ナチのために処刑されたことが明らかになったのです。彼は戻って来ませんが、その名誉は完全に回復されたのです。

そもそも彼が選ばれたのは、精神的にハンディヤップがあったからです。彼は圧力に屈した犠牲者にすぎないのです。生けにえです。そして、彼はドイツ人ではなくオランダ人でした。

さて、どうやら結論に達しました。大切なのは次におこったことです。では、ペンを置いて。P11の資料読みがきっかけをくれましたよね。ナチ党の仕業だと考えられる理由の一つはこれです。この写真を見てください。 **画13** こういう事態が、共産党員を襲いました。狩り集められています。この人物は誰でしょうか？

生徒) 突撃隊です。

教師) 突撃隊、ヒトラーの手下です。ヒトラーは、放火を行った悪者は共産党員だとヒンデンブルクに思い込ませました。数百人が狩り集められてほどなく銃殺されたと聞けば、事件をおこしたのは共産党員だと思われたはずですよ。

教師) さて、私たちのテーマは何だったでしょう。民主政治から独裁へ。ヒトラーは何を支配するようになりましたか？政府ですね。ほかに支配したものは、P13？

P13) 法律と軍隊。

教師) そうですね。でも、権力を得た彼らが今や実行できるようになったのは、何でしょうか？

P13) 政府内に新しい力を生み出すこと。

教師) はい。今や共産党員だけでなく、誰でも逮捕できるようになりました。ほかに何ができるように、P5？

P5) マスコミを支配しました。

教師) なるほど。なぜマスコミを支配することが大切なのでしょう？

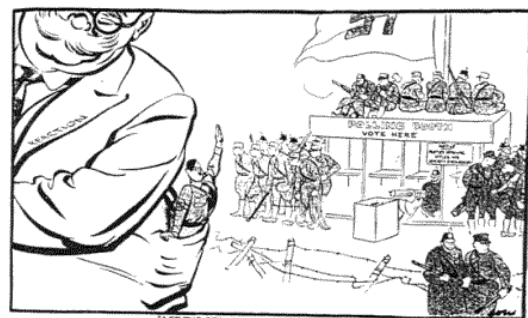
P5) マスコミは事件がナチ党の仕業だという世論を生み出すことができたからです。でもマスコミを支配



事件

- 火事のあと、ヒトラーはヒンデンブルクに緊急指令を発するよう促した。
- 多数の共産主義者たちが検挙された。

13



このイギリスの風刺画は、1933年3月の選挙について何を語っていますか。

14

することができれば、それをほかの人のせいにする
ことができます。

教師) すばらしいですね。はい、ヒトラーはマスコミを
支配しました。事實は、ファン・デル・ルッペは潔
白で、ナチ党の計略だったのですね。人々は、マス
コミが報道することなら信じるのではありません
か。

教師) 次の出来事を見ることにしましょうか。テキスト
の99ページを開いてください。

この授業は単元の一環でから、この学習は次回か
ら続きます。

選挙が行われます。この絵は皆さんのテキストに
も出ていますね。画14 選挙です。ヒトラーは過半数を得ましたか？まだです。彼はまだ権力者ではあり
ません。いいですか。

選挙の結果はこうです。画15 テキストにも同
じものがありますね。共産党をみてください。P 9
が言ってくれたように120余りあった議席が、81に
減っています。人々の気持ちは共産党から離れ、ナ
チ党が選挙で躍進しました。でもまだ過半数には達
していません。ヒトラーはいくつかの政党と密約を
交わしました。全権委任法に署名がされたのです。

画16 このことは、次の授業で扱います。授
業の初めに取り上げます。そのすぐ手前まで来まし
た。ヒトラーは権力者に近づきました、でもまだ絶
対権力ではありません。

画17 では、次の授業のための用紙を配ります。
半分に折って、テキストに貼っておいてください。

【用紙の処理作業】

教師) 今日の授業について、自分にとって新しい事柄を、
ひと言書いておいてください。何か考えたことや学
んだことを、この授業のまとめとして。

宿題はこれですよ。画18

【授業終了】

1933年3月の選挙



ナチ党	288議席
共産党	81議席
社会民主党	120議席
国家人民党	52議席
カトリック中央党	93議席
その他	23議席

ヒトラーは国会内の最大勢力と
なったが、依然として過半数に
は達していなかった。あくまでも
議席の一部を占めたまでだった。

15

全権委任法



- 国会はベルリンのクロル・オペラ・ハウスで開かれた。
- 共産党員は参席を許されな
かった。
- ヒトラーは国家人民党とカ
トリック中央党を処断してい
った。
- ヒトラーは、今や国会内の
過半数を占めるに至った。
- 国会は緊急事態を発令した。

全権委任法は、ヒトラーに独裁的
な権限を与えた。今やヒトラーは、
国会の議決なしに独断で法を定
める力を持つに至った。
もはやドイツは民主国家ではない。
独裁国家である。

16

総括

- 国会議事堂放火事件と全権委任法は、ヒトラーによるドイツの全権掌握をどのように推し進めただろう？

17

歴史の宿題

- 「長いナイフの夜」事件について調べる
- 次の授業に向けて

18

2. 授業用配付・回収資料日本語訳

資料A 英国の記者（D. セフトン・デルマー）が目撃したのはゲーリンクとヒトラーの動き

20分ほど（火事に）見入っていた後、私はヒトラーの有名な黒塗りの車が通り過ぎて行くのを見た。私設のボディガードたちが乗る車がそれに続いた。私は走ってあとを追いかけて、ヒトラーの団が国会議事堂に入っていくのに間に合った。

ヒトラーの右腕であるゲーリンク大佐と、…私たちはロビーで出会った。彼はとても興奮した表情で、「これは疑いもなく共産主義者の仕業です、首相閣下」と言った。「何人もの共産党議員たちが、火の手が上がる20分前に議事堂内にいました。我々は放火犯の一人を逮捕しました。」

資料B ルドルフ・ディールズ著『1933年のナチ党員とベルリン警察署長』（1955年）より

（議事堂放火の責任に関する一見解）

「私は、ファン・デル・ルッベ自身が放火したと思います。私が燃えさかる議事堂に到着した時、すでに数名の警察官が彼を尋問していました。その自白から、彼は放火の専門家であり、誰の助けも必要としなかったと考えられました。カーテンや木の壁板など古い調度品に、火を着けられない人がいるでしょうか。彼はライターで何十回も火を着け、議事堂の係官に捕らえられた時は、自分の焼けたシャツを松明のように右手に持っていました。」

資料C 1946年ニュルンベルク戦争犯罪裁判でのハルダー将軍の証言

1943年の総統の誕生日の昼食会の席で、総統を囲む人々の会話が国会議事堂の建物とその芸術的な価値に及んだ。ゲーリンクが会話に割って入り「議事堂の件を本当に知っているのはこの私だけだ。私が火を着けたんだから」と叫ぶのを、私はこの耳で聞いた。

資料D 警察へのファン・デル・ルッベの声明

私が一人で実行したかどうかの質問に対してですが、確かにそのとおりです。私は誰の手も借りませんでした。

資料E 1933年12月6日の通信記事

土曜日にライプツィヒでブリュンガー裁判官が読み上げた国会議事堂放火事件の裁判の判決理由は、二つの部分に分かれていた。…判決の前半は明快で、証言に対して無情とも言える裁断を下していた。ファン・デル・ルッベは反逆罪に当たる。革命を引き起こす意図をもった放火だった。ルッベは議事堂への放火を単独では実行できなかっただろうが、しかし共犯者はわからない。判決の後半は、法廷での発言というよりは選挙の演説のようだった。共産党に対する許されざる攻撃である。いきり立つナチ党をなだめようとするものだったにちがいない。裁判中、何度も意見陳述が行われた。発言者は、ゲーリンク将軍と悪名高いハインズ警察署長だった。

資料F 1946年ニュルンベルク戦争犯罪裁判でのヘルマン・ゲーリンクの証言

ハルダー将軍の発言は真実ではありません。…まったくあべこべです。もし仮に私が放火したのだとしたら、私は決してそれを誇らしげに口にはしなかったでしょう。

資料G バロック・A『ヒトラー 専制の研究』(1952年)より

ゲーリンクは、共産党をたたきのめすための口実を探し続けていた。彼は、ファン・デル・ルッベはテロを計画する多くの共産主義者の一人であると言明した。議事堂放火は、共産主義者による反乱の狼煙であったと。

実は私は、議事堂放火はナチ党自身が計画し実行したものだと考えている。ファン・デル・ルッベは、他の建物に放火しようと企てた後、SA(突撃隊)に連行された。彼は議事堂内に入ることを許され、建物の一部に火を着けた。それと同時に、ナチ党は本格的な火を着けた。

資料H A. J. p. テイラー『第二次世界大戦の原因』(1961年)より

ナチ党は、議事堂放火には一切関わっていない。本人が自供しているように、オランダ人青年のファン・デル・ルッベによる単独行動だ。ヒトラーほかのナチ党員は罠にかけられた。彼らはひたすら、共産主義者が放火したと信じていた。



'A battle for Germany.' This Nazi poster was issued in 1933. It shows the work of the SA as a battle against the communists.

資料I ナチ党のポスター

「ドイツ国家のための戦い」。このナチ党によるポスターは、1933年に発行された。SAによる共産主義への戦いを表したものである。

資料J ネルソン・トーンズ著『20世紀の深度の研究』(2009年)より

火事の翌日、ヒトラーは第48条を用いて緊急事態指令を出すよう、ヒンデンブルク大統領を説得した。国民を政治権力から保護するための法律が、反政府的な疑いのある人物を誰でも逮捕できるという、絶大な力をヒトラーに与えたのだった。個人の権利や表現の自由はまったく制限され、報道への管理が強められた。ヒトラーにとっては、政敵を退けるための絶好の機会だった。多くの者が捕らえられた。そうでない者は、SA(突撃隊)による脅迫行為のために議決ができなかった。突撃隊は、反ナチ派の敵対者に疑いをかけていることをほめかした。

資料L 2010年の教科書より

ゲーリンク(ナチスの要人)の自宅から国会議事堂まで、地下トンネルが通っていた。SAの指揮官は、このトンネルを通過して部隊を移動させた。彼らは、毒ガスや化学兵器を撒き散らした後、ゲーリンク宅まで引き返して行った。

同じ頃、思慮半分のオランダ人共産主義者ファン・デル・ルッベが、放火のために議事堂に入って行った。ナチ党にとっては、神の恵みだった。精神疾患のある共産党の放火犯がナチ党自身が企てていたことを実行したというのは、信じがたい偶然でもあった。しかし、それは確かなことだった。

3. 日本の歴史授業に示唆するもの

この授業の展開は、概略次のように整理することができる。

段階	各段階の趣旨	学習活動の内容
導入	学習材への着目	ポスターの描かれ方から推察するナチ党の政治宣伝の姿勢
展開1	中心学習課題の明確化	学習課題「ドイツ国会議事堂の放火は誰の仕業か？ ねらいは？」の明示 ・基本重要語句「民主政治」「独裁政治」の意味の確認 ・民主主義の象徴である国会議事堂とその放火事件のもつ意味への着目
展開2	資料の読解とその検証	二人に1組ビニール袋入りの資料10種類の配付【貸与 → 終業時に回収】 ・二人組での生徒による資料の判読と解釈 ・教師の導きによる各資料の記述内容の確認とその批判的な検討
展開3	学習課題の解明	資料の批判的検討に基づく放火事件の背後事情の検証と学習課題の解明 ・共産党員の仕業とする資料の批判的な解釈とナチ党の政治宣伝の検証 ・放火事件が残したヒトラーの勢力拡大という政治的影響への着目
まとめ	学習課題への解答	一連の検討を踏まえた学習課題に対する解答の個人記述とその交流

ここからわかることを踏まえながら、この授業が日本の歴史授業に与える示唆は何か、検討しよう。注目すべきなのは、次の3点である。

- (1) 解明すべき学習課題が明確に示され、100分間の授業全体が課題解決型の設計になっていること
- (2) 題材を選び抜いて授業の導入を工夫し、まとめでは生徒間の合意を踏まえた結論に至っていること
- (3) 資料は課題解決に必要な情報を得るものと位置付け、終業時にはその全てを回収していること

(1) 学習課題の明示と課題解決型の授業設計

この学校では、どの教科も通常の1単位時間を100分間で展開している。授業時間は長いですが、この歴史の時間では生徒のほとんどが途中で飽きたような様子も見せず、授業に参加し続けていた。その最大の理由は、授業全体が明確な課題解決型の設計になっていることだと考えられる。

18

始業から約15分で、本時で解明すべき学習課題が明示される。「ドイツ国会議事堂の放火は誰の仕業か？ そのねらいは何か？」である【上表中の展開1】。そして、生徒は配られた資料を用いてこの学習課題の解明に挑む。初めは二人組での生徒による自助努力で【展開2】、後半には教師の指導のもとに【展開3】、資料を解読して事実関係を解明していくのである。生徒は授業を通じて課題解決の主体者であることを求められ、課題解明への興味を持続させることになる。

この放火事件を取り上げたのは、その後のナチ党の躍進と政治的支配の確立を促す契機だったからである。歴史の節目に当たる出来事に焦点化させて、教材が選定されている。そして、この事件の真相を解明していくことで、ヒトラーが民主ドイツを独裁国家に変貌させていった過程が深く理解される。課題解決型の学習が、その過程での思考や技能についてだけ意味をもつのではなく、歴史の展開に関わる重要な理解を可能にしているのである。

(2) 導入の工夫と生徒間の合意に基づくまとめ

導入とまとめに力が込められている授業である。

授業の導入で、ヒトラー首相とヒンデンブルク大統領が握手するポスターを提示し、両者の関係性の読解を促している。ポスターは、選び抜いた独自の発掘教



カレン先生の歴史授業 豊富な情報提示と的確な発問

材である。生徒たちには、多様な着眼と批判的な解釈が促される。

- ・握手が示そうとしている両者の関係性
- ・姿勢や視線から推察される両者の立場
- ・両者の服装の違い
- ・背後に描かれた政治的支持者たちの姿とその意味
- ・中央の大きなナチ党旗の意味

両者は固く握手をしているが、このポスターがナチ党の制作であることに着目させて、その政治宣伝の具としての捉えに導いている。このことは、本時でこのあと取り組むドイツ国会議事堂放火事件の真相解明のための、論理的な布石になっていく。

導入には、教材に対する興味を引くことはもちろんだが、同時に学習の到達点を見通す働きが求められる。上記したように、この授業では解明すべき学習課題が明確である。課題解明の活動に生徒たちを向かわせると共に、巧みな政治宣伝を弄したナチ党という学習の到達点への見通しをもたせるための有効な手立てとして、導入材とその読み解きの活動が用意されているのである。

授業終盤のまとめでは、誰が何のために放火をしたのかという学習課題に対する解答を、生徒個人で記述させた上で相互に交流させている。授業途中での各種資料の批判的な読解を踏まえて、放火事件をナチ党の仕業だと考えることの合理性が、生徒それぞれの納得や生徒間の合意に基づいて教室内で共有され、それを証左する事件後の諸事情を紹介しながら確かめられていく。さらに、この事件を“民主政治から独裁国家へ”（スライド資料1にある本授業の副題）というより大きな歴史展開の中に位置付け、ヒトラーの立場が絶対権力化していく過程へ目を向けさせる。

学習課題と授業のまとめが正対・整合し、それに向かわせる最適な導入が工夫されることで、学習の成果を確かに習得・定着させる課題解決型の授業が実現しているのである。

(3) 配付資料の貸与と回収

授業中、生徒に配られた資料は、終業時には全てそっくり回収された。この時間で最も印象深い点であり、資料というものの意味づけに関する意識が明確にうかがわれる場面であった。

小さな紙片状の資料10種類が、ビニル袋に入った状態で、二人に1組ずつ配られた。どれも議事堂放火の背景や責任に言及した、今日の学習課題の解明に必要な資料である。これも授業者独自の収集教材である。生徒はペアでこれらを判読し、わかったことを配られたプリントの枠内に記入していく。約20分間の活動である。続いて、教師の指導のもと、資料自体の出典や作成意図などに着目しながら、これを批判的に読み解いていく。そして授業が終わったら、全ての紙片資料は袋に戻して教師のもとに回収された。



授業中二人ずつに配付(貸与)される資料の袋

ここに見られるのは、日本での資料の扱いとは大きく異なる意識である。授業の場で学習課題の解明に必要な情報を収集できれば、それで資料の役割は終わる。手元に残して整理する必要も、ましてやその文言を記憶したりする必要もないのである。

実は、この教室で多くの生徒は、資料それぞれを十分批判的に読み解いて、資料の記述とは裏腹のナチ党の謀略に言及するまでには至っていない。教師の側が論理立てながら、適正な解釈に導いていく場面が多いのである。だがこれは、教師による誘導というよりも、生徒にとっての批判的な学びの手本というべきものだろう。どの国の子どもでも、最初から批判的な読解力や思考力が備わっているわけではないのである。教師との協働を含む資料活用や課題解決のトレーニングを重ねていくことで、その手法や感覚が次第に身に付いていくと考えられるべきだろう。

なお、本時のキーワードとなる「民主政治」と「独裁政治」の2語は、全員が確実に理解・習得することが求められた。授業の早い段階でスライド画面を音読させて意味理解を図った上、授業後半でもその意味を問い直して復唱させている。学習の基軸となる概念用語は、徹底して習得させようとしているのである。また、授業後に手掛ける作業として、20個近い用語の選択・充当を行う平易な課題プリントが全員に配られた。

3. 学校情報

この学校（Our Lady Queen of Peace Catholic Engineering College School）は、英国イングランド中部ランカシャー地方の中規模都市ウィガン市の郊外にある私立の中等教育学校で、11歳から16歳までの男女生徒約800名が在籍している。校名に冠するとおりキリスト教を尊重している学校で、毎日午前中の15分間は全校生徒が講堂に集まっての礼拝が行われる。

国籍によらず幅広い生徒を迎えようとしている。英語の初期指導体制を整えているほか、フランス語、スペイン語、そして日本語の専属教員が常勤している。視察訪問中も、日本語担当の日本人女性教員が、通訳を含めて諸般の面倒を見てくださった。

数年前から、1単位時間の授業を100分間で進めている。多くの教科にとって、学習活動の時間が十分に確保でき、それによって授業内容の深まりが期待されるとの見込みから、試行されているものである。所期の一定成果は得られており、校内システムとして定着しつつあるようである。

関係の教員によると、同校の学力水準は英国中部地方全体の中程度よりやや下ぐらいかということである。日本国内では一部に、資料を活用したり話し合ったりして歴史を解釈するような学習は、十分な基礎学力が備わっていない場合には難しいとの声が聞かれもするが、果たしてどのようだろうか。



Our Lady Queen of Peace Catholic Engineering College School 遠景